

まんが子ども太平洋戦争物語

言えなかつた サヨナラ

浜松大空襲日記



画・石川森彦

この物語の背景となった
おもなできごと

1931年(昭和6年) ● 満州事変が起こる。

1933年(昭和8年) ● 日本が国際連盟を脱退する。

1937年(昭和12年) ● 日中戦争がはじまる。

1939年(昭和14年) ● 第二次世界大戦がはじまる。

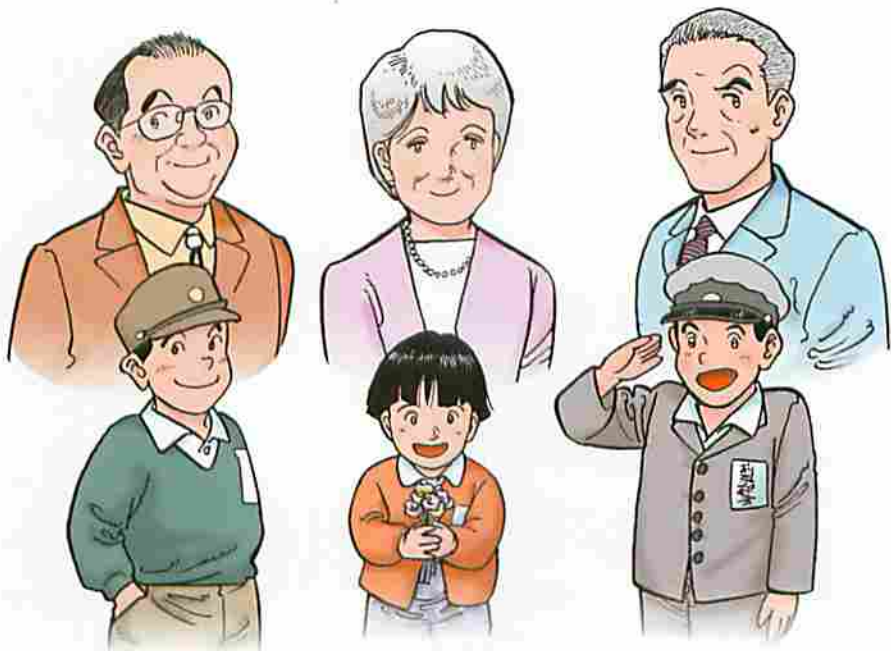
1941年(昭和16年) ● 太平洋戦争がはじまる。

1942年(昭和17年) ● 日本本土がはじめて空襲される。

1945年(昭和20年) ● 東京などが大空襲にあう。

● 広島・長崎に原子爆弾が
落とされる。

● 日本はポツダム宣言を
受け入れて降伏する。



みなみ たいち
南 太一

けんご ともだち
研吾の友達
10歳(昭和20年)

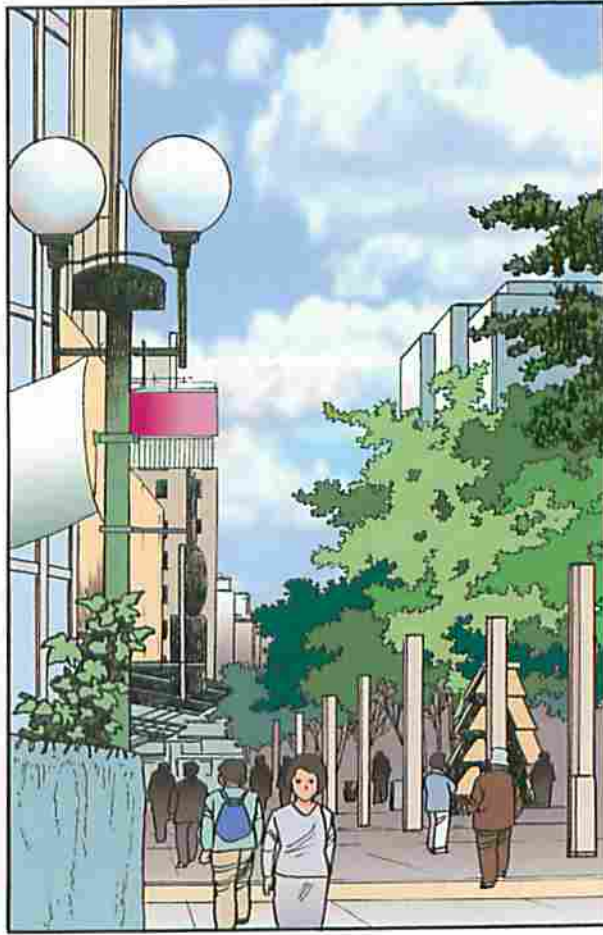
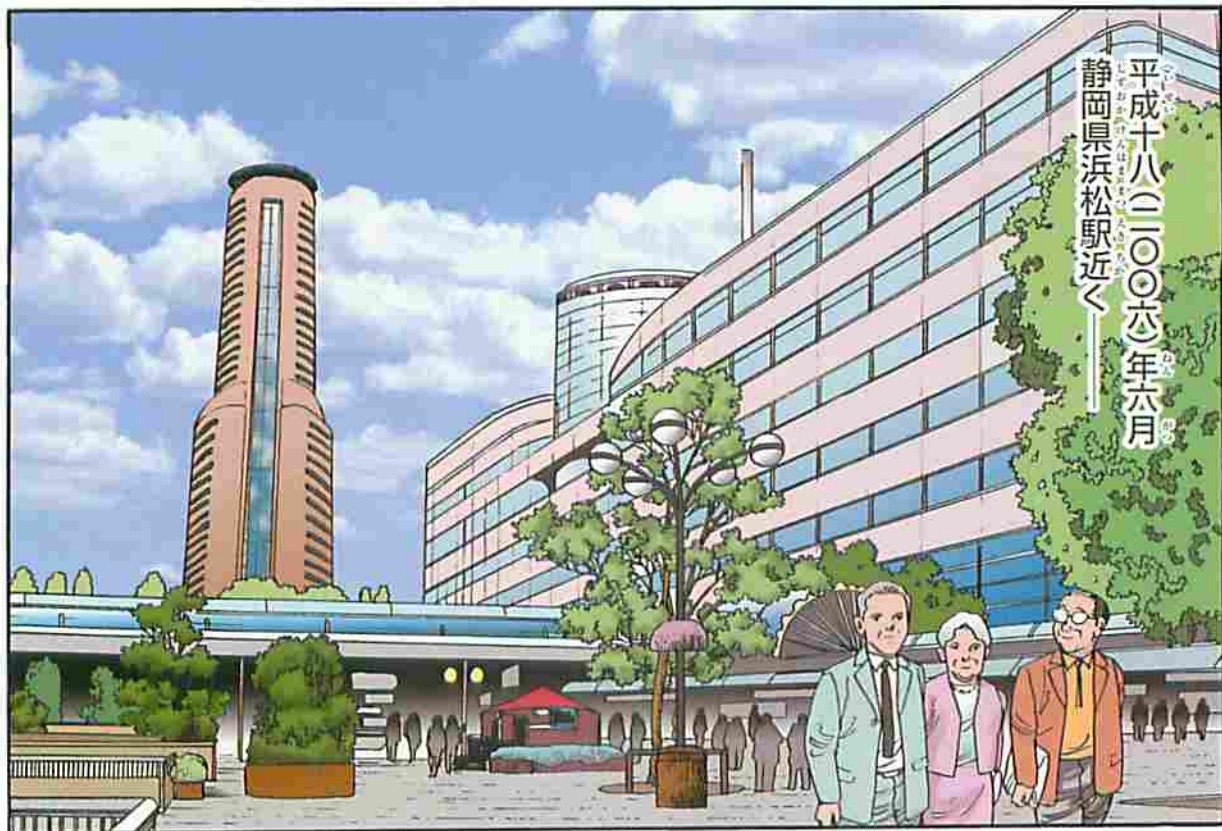
まえざわ たけこ
前沢竹子

けんご いもうと
研吾の妹
7歳(昭和20年)

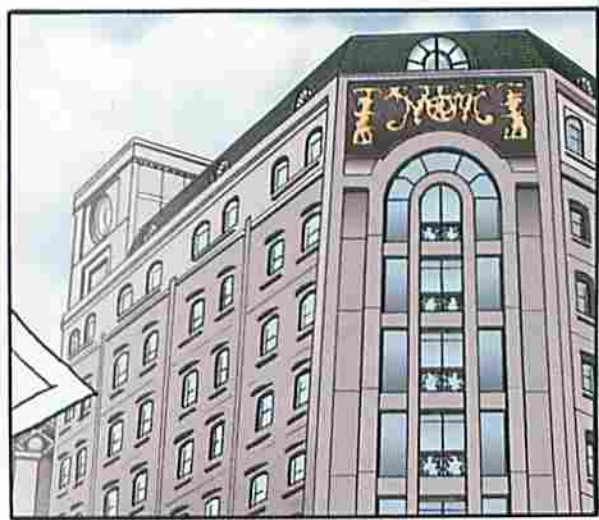
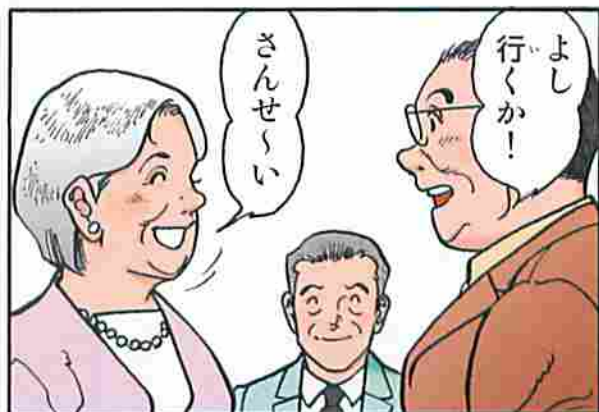
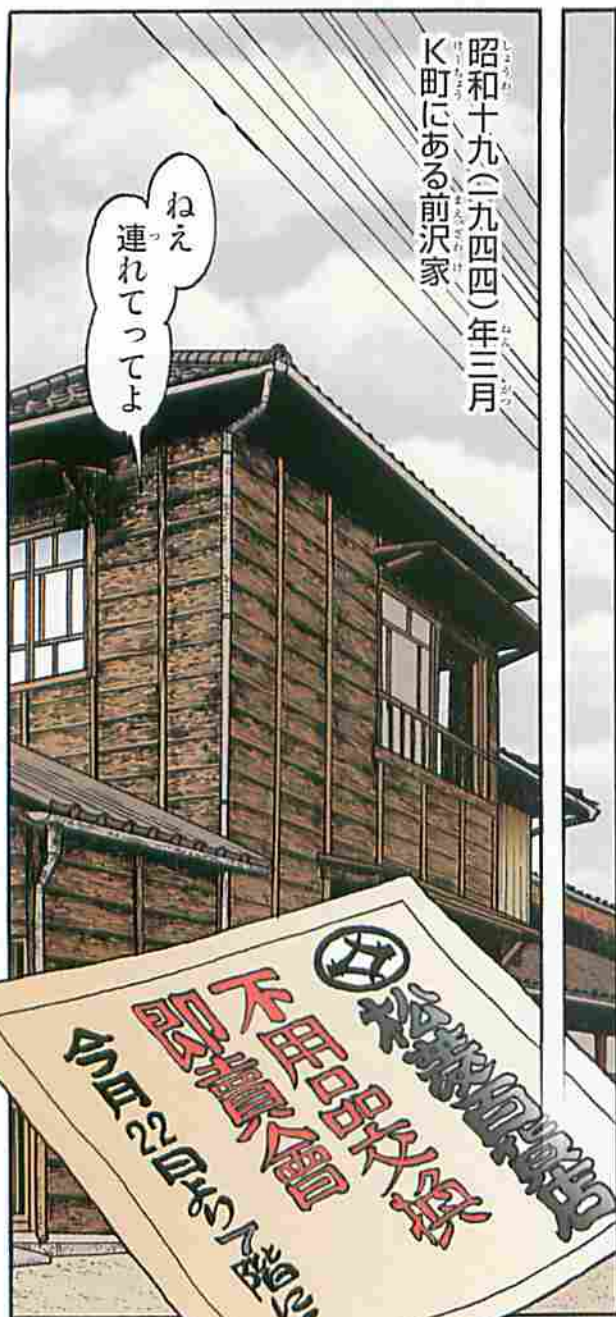
まえざわ けんご
前沢研吾

ものがたり しゅじんこう
この物語の主人公
10歳(昭和20年)

平成十八(二〇〇六)年六月
静岡県浜松駅近く











婦人会が主催した不用品交換即売会。

不用品交換即売

人々は生活用品が不足する中で、なんとか日々の暮らしを守るうと工夫していたのです。

この物語にてくる浜松の松菱百貨店でも「不用品交換会」がひらかれ、たくさんの方が集まりました。また、これらものを直してくれる修理所もありました。

戦争がはげしくなると、生活に必要なものがだんだん少なくなりました。そこで、人々は家で使わなくなったなべや洋服を持ちよって交換会をしました。

「不用品交換会」

戦争がはげしくなると、生活に必要なものがだんだん少なくなりました。そこで、人々は家で使わなくなったなべや洋服を持ちよって交換会をしました。







金属がどんどんなくなるとお寺の鐘も回収されました。

戦争が長びくと、飛行機や爆弾をつくるための材料が足りなくなってきました。そこで国は「金属類回収令」を出し、いろいろなところから鉄などの金属を集めました。

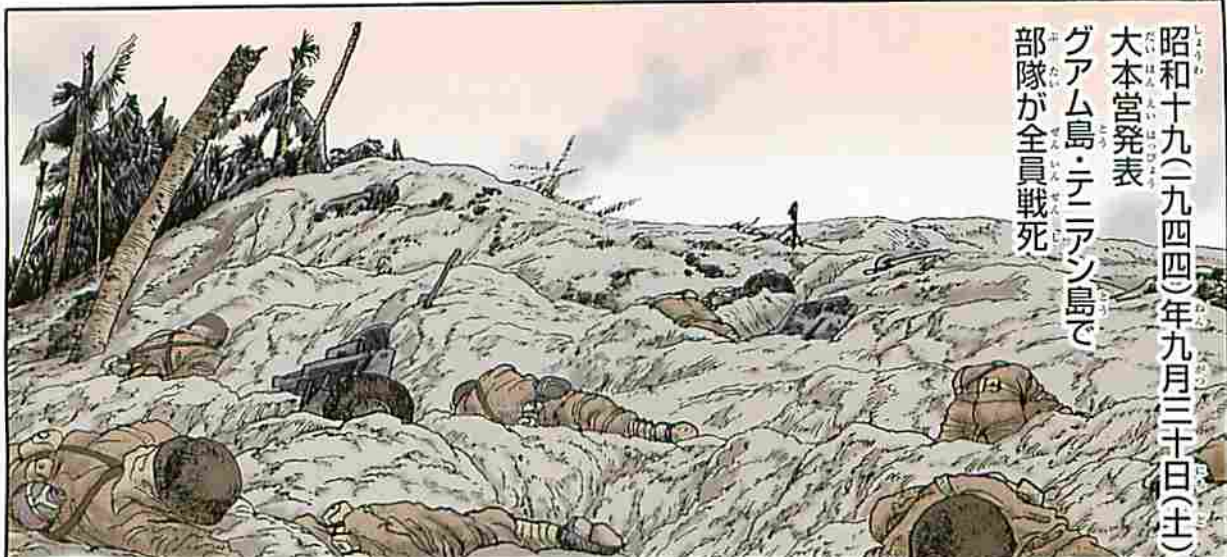
鉄でできた橋や線路だけでなく、デパートのような大きな建物ではエレベーターも回収されました。

家庭では、やかんやなべなどの生活用品から、ペーゴマやブリキでできた子どものおもちゃまで集められることになりました。人々は不自由な思いをしました。

【金属回収】



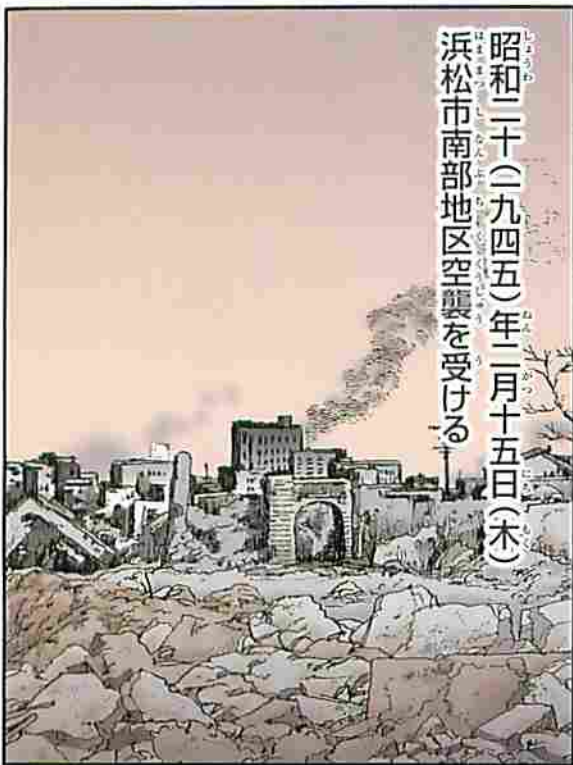
昭和十九(一九四四)年九月三十日(土)
大本営発表
グアム島・テニアン島で
部隊が全員戦死



浜松市は昭和十九年十二月十二日(水)
最初の空襲を受け
しだいに被害が広がっていった



昭和二十(一九四五)年二月十五日(木)
浜松市南部地区空襲を受ける



【軍需工場】

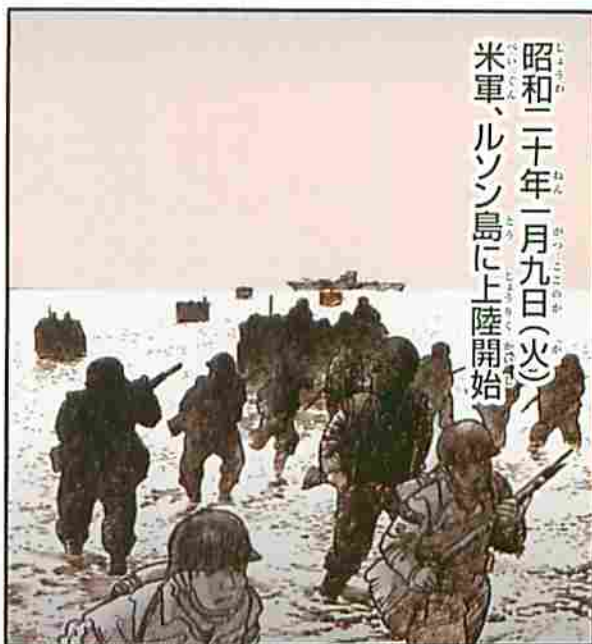
軍隊や戦争に必要な物資をつくる工場を「軍需工場」といいます。戦争中、工場のほとんどは飛行機や爆弾などの兵器をつくる軍需工場に変わっていききました。さらに、デパートや学校も軍需工場として使われ、女学生や子どもまで、一日中、武器や軍服などをつくらされました。

この物語のぶたいの浜松には当時から大きな工場がたくさんあり、戦争中は軍需工場として使われていました。そのため、何度も空襲を受けることになったのです。



工場での仕事は子どもたちにとってとてもつらいものでした。

昭和二十年二月九日(火)
米軍、ルソン島に上陸開始



昭和二十年三月十七日(土)
米軍、硫黄島を完全占領



三月中旬
前沢家



行ってきますーす

空襲に
気をつけてね



すぐ
防空壕に
入れよ

はい

父さんもね

軍需工場だから
こわいわ…

心配するな

だいじょうぶだよ

……



昭和三十年四月三十日(月)
浜松市中部地区空襲を受ける



五月初旬
前沢家

母ひで、妹竹子、弟東吾の三人は
浜松市の空襲がはげしくなる中
親戚がいる愛知県の農村に
縁故疎開をすることになった



父さんと研吾を
たのんだよ

だいじょうぶ
ちゃんと
やるから



そっちこそ
二人を
たのむぞ!

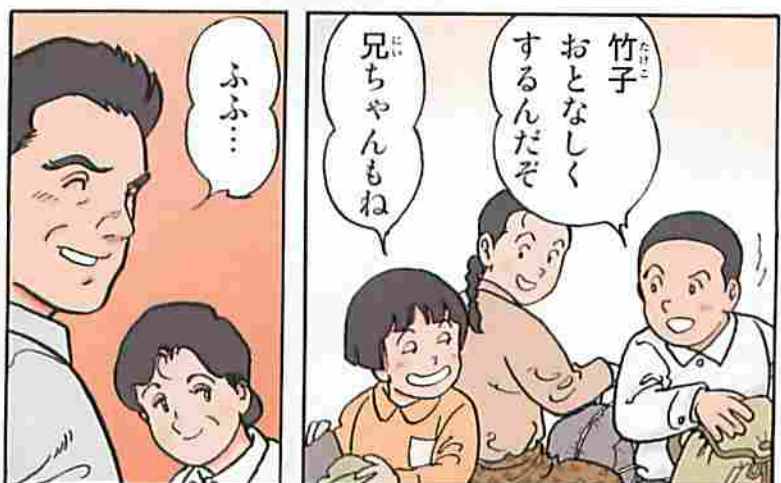
わかりました



竹子
おとなしく
するんだぞ

兄ちゃんもね

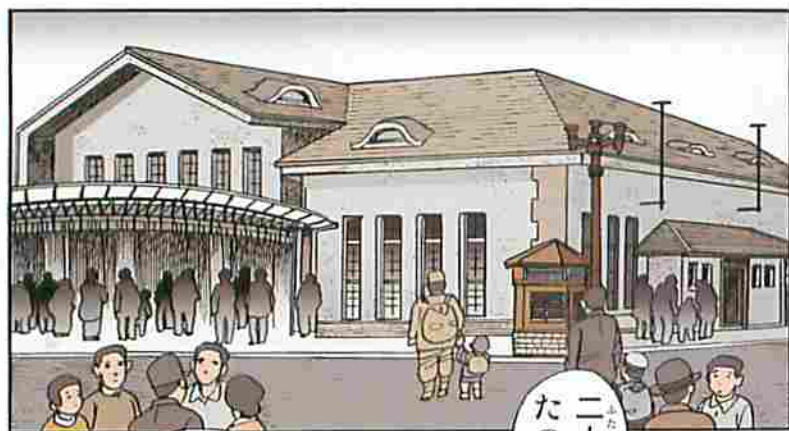
ふふ...



周ちゃん
どうして
る?

あいつも
疎開する
みたいだ





さあ
駅まで
見送りで

二人を
たのみます



こっちは
心配
するな



竹子
手紙
ちょうだい
ね!

みんなと
別れるの
さみしい
よ...

だいじょうぶ
すぐ帰れる
から



【疎開】

疎開とは、空襲をさけて、都市部の人やものを安全な場所に移すことをいいます。疎開も最初の頃は、親せきの家に引こす「縁故疎開」がほとんどでした。

戦争がはげしくなると、子どもたちは国の決まりで学校ごとに地方へ移り住みました。これを「集団疎開」といいます。疎開すると、子どもたちは親とはなれて暮らさなければなりません。その上、毎日きつい仕事があったので、疎開先での生活は子どもたちにとってつらいものでした。



疎開先の食事は粗末なものでした。
(写真は当時の食事を再現したもの)

五月中旬



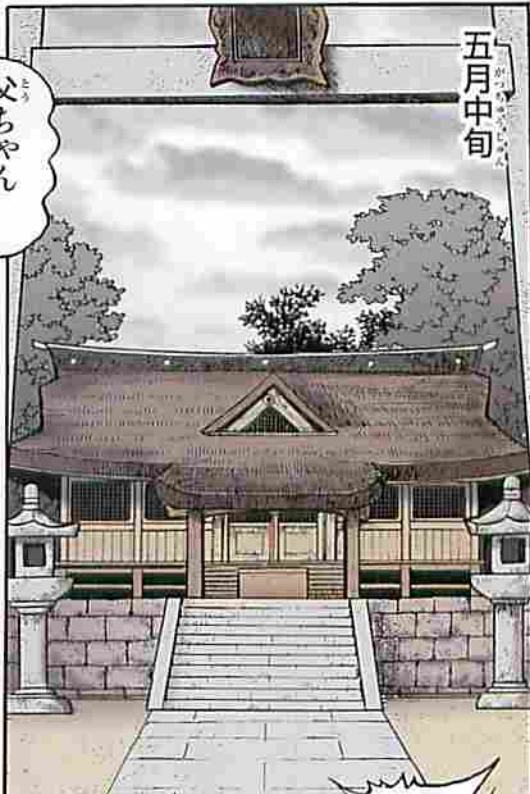
父ちゃん
死んじゃった
ひでえよ
戦争なんて



太一
泣くな

たいっちゃん

うん



日本は
負けちゃう
のかな…

父ちゃんの
部隊は全滅
だって…



研ちゃん
声大きいよ

かまう
もんか!



戦争の
バカやろう!



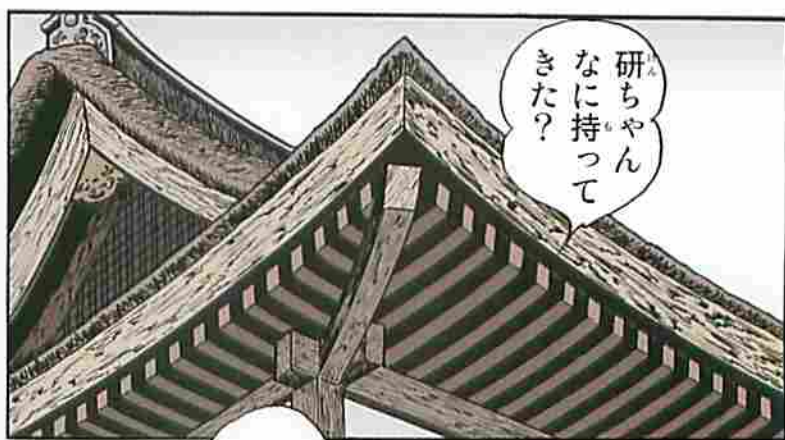
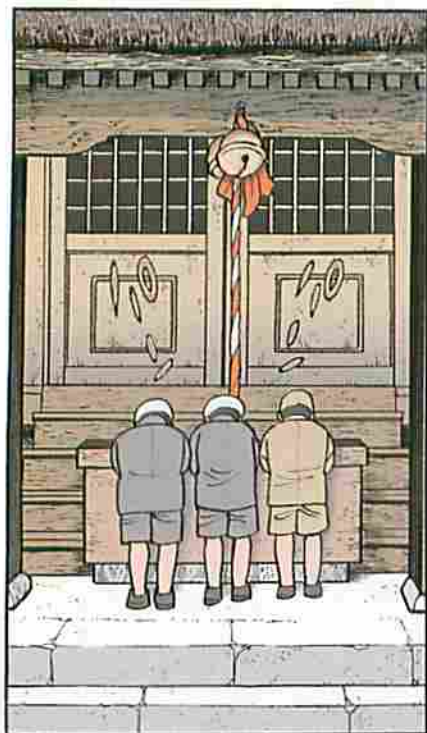
よし
オレたちの
一番大事なモノを
神様にお供えして
お参りしようぜ!

おう
やろうやろう



負ける
もんか!

そうだ
よな!



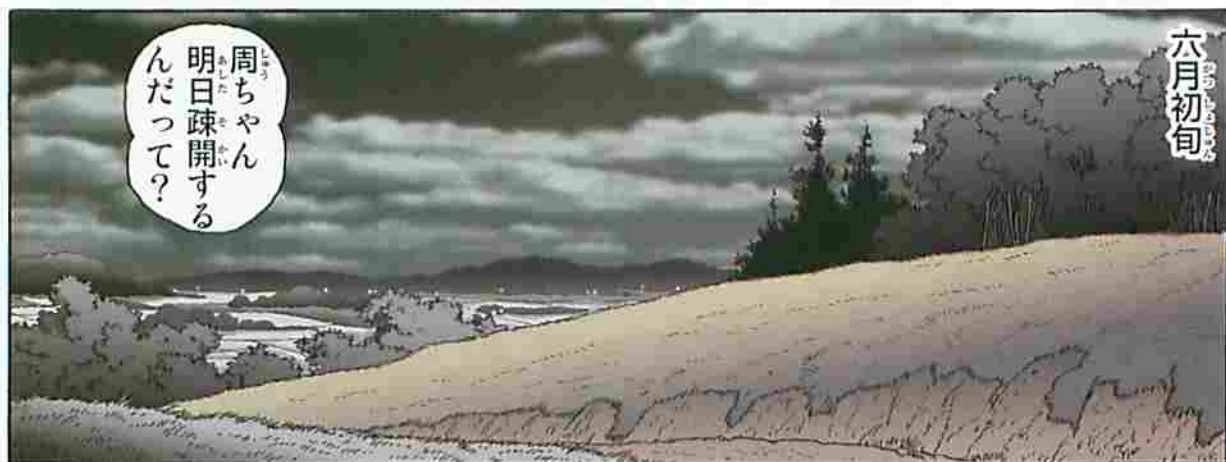
研ちゃん
なに持って
きた？



おれメンコ
持ってきた

ぼくは
あめ玉

おれ父ちゃんに
もらったコマ



六月初旬

周ちゃん
明日疎開する
んだって？

【戦時下の子ども】

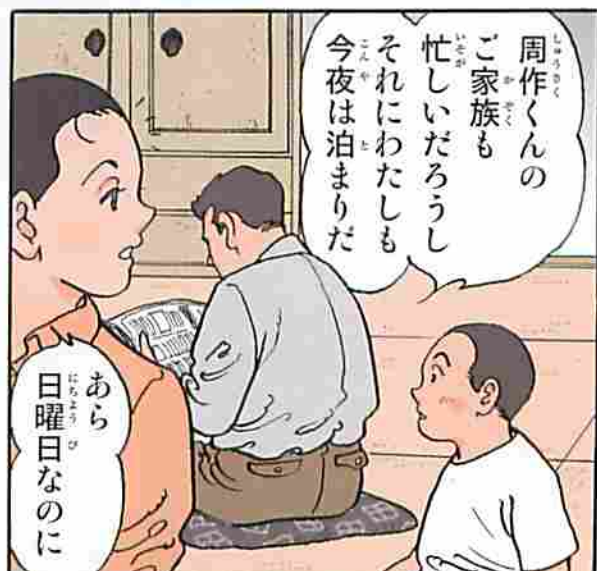
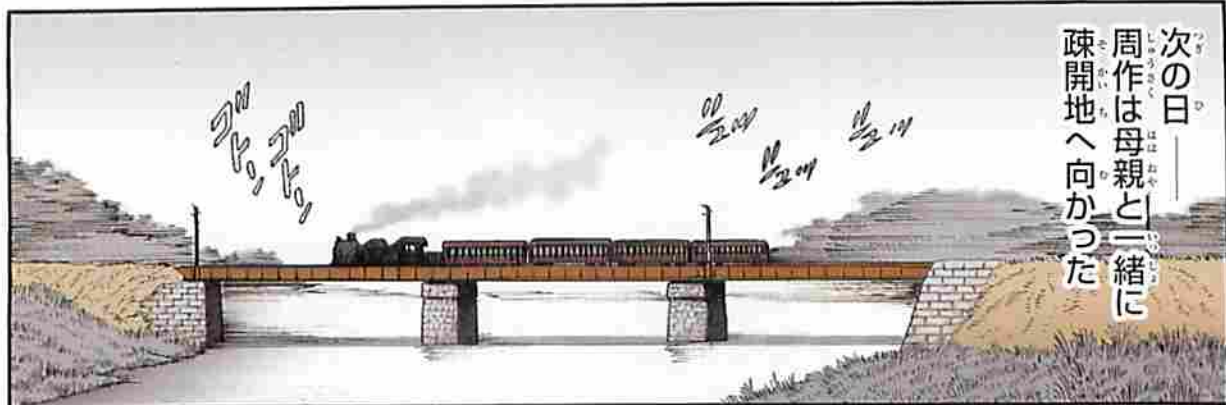
戦争中、子どもたちの一番の楽しみは友だちとの遊びでした。人気があった遊びは、メンコ、ベーゴマ、模型飛行機、ままごと、人形遊びなどです。また、現代のように子ども向けのざっしもありました。

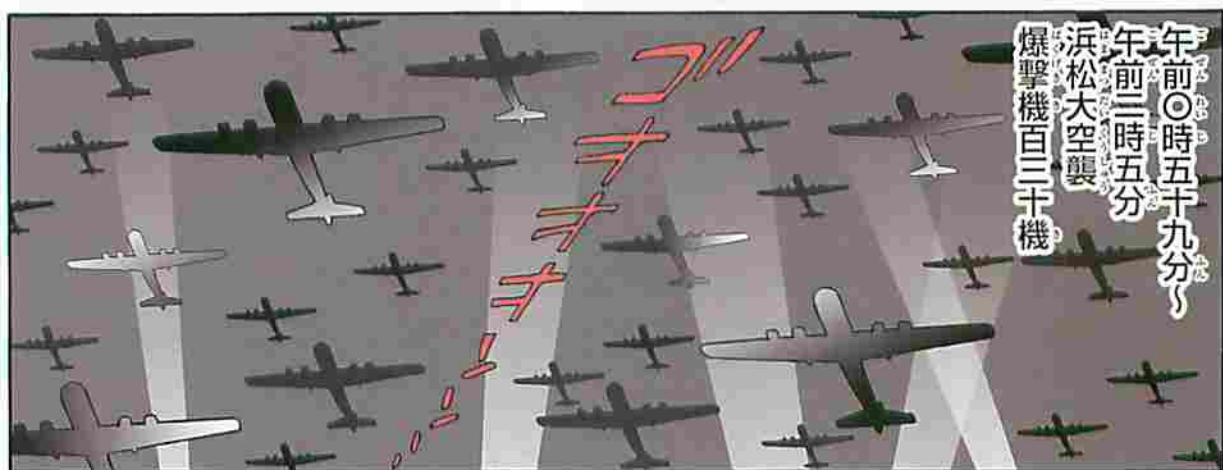
だんだん戦争がはげしくなると、子どもたちの遊びでも戦争ごっこやかんごっこごこがはやるようになりました。このように、子どもたちも戦争のえいきょうを強く受けていたのです。



メンコは少年たちの大切な宝ものでした。

次の日——
周作は母親と二緒に
疎開地へ向かった





【浜松大空襲】

戦争中、静岡県浜松市は米軍の飛行機の通り道になっていて、工場も多かったため、何回も空襲を受けました。

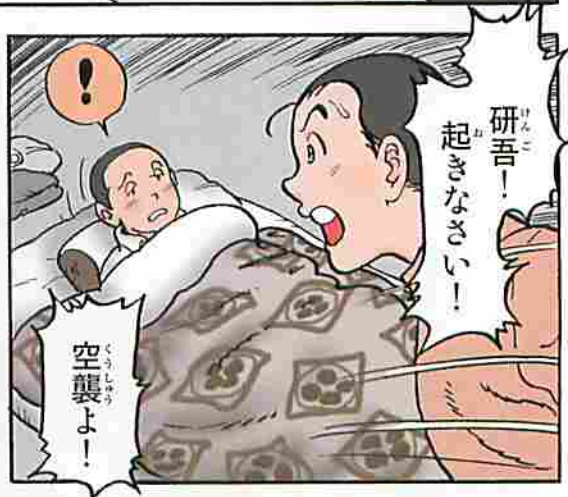
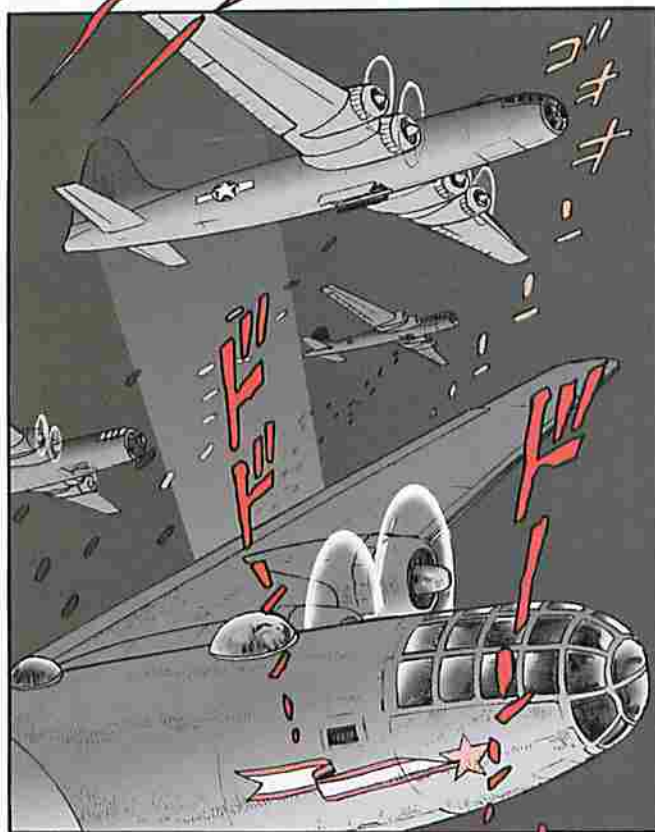
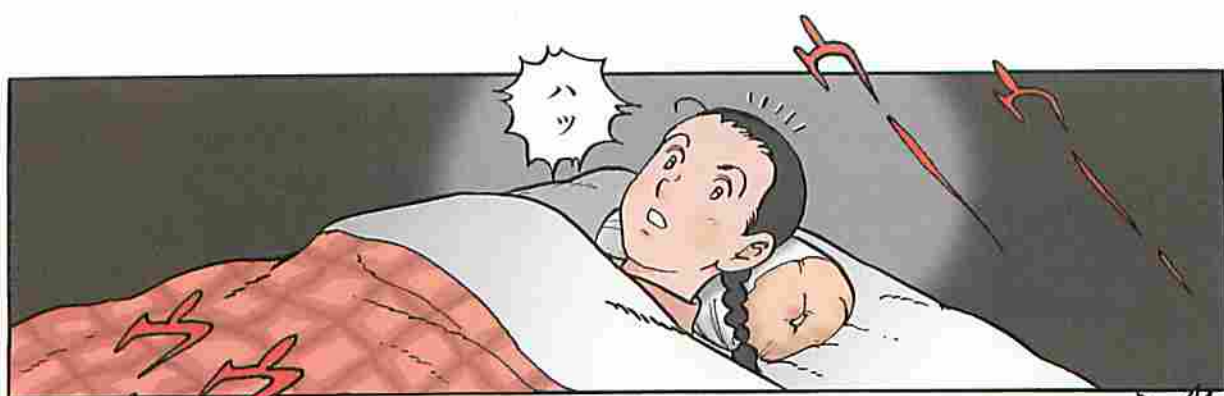
特に被害が大きかったのが「浜松大空襲」とよばれる一九四五年六月十八日の空襲です。

空襲が始まったのは、ちょうど人々がねている夜の一時ごろでした。それから夜明けにかけて、たくさんの焼夷弾が落とされて、あたり一面が火の海になったといえます。

この空襲で、浜松市の92%が焼けてしまいました。



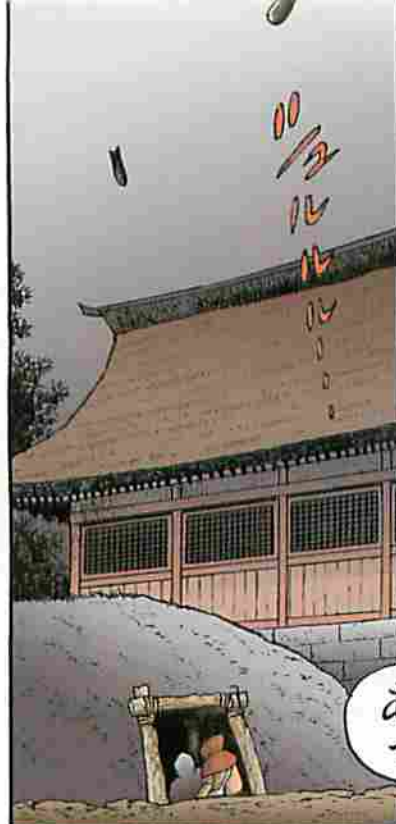
空襲で浜松の町は焼け野原になりました。

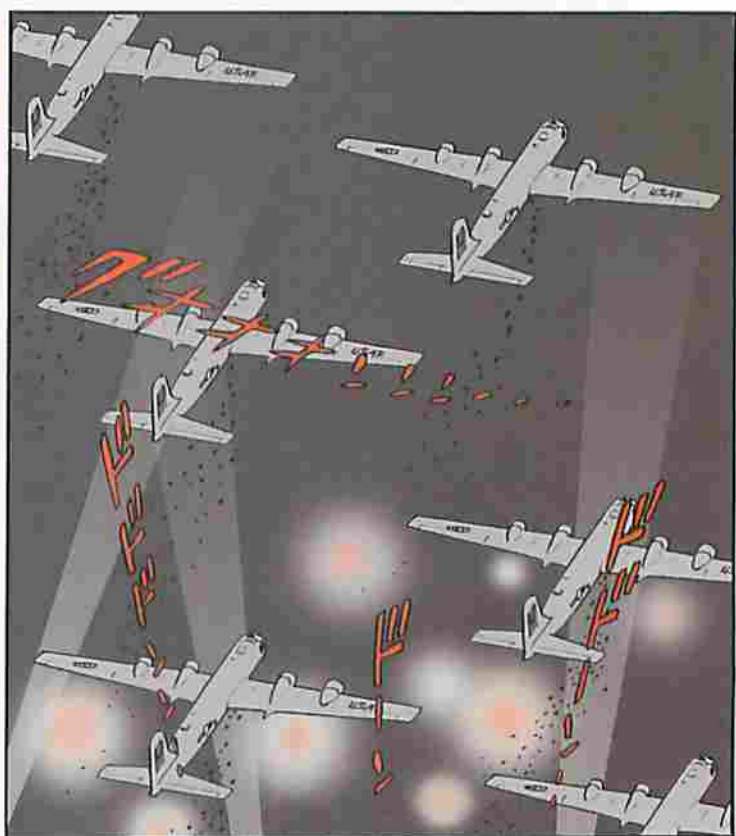




防空壕の中は狭くて、じめじめしていました。

【防空壕】
「防空壕」は空襲のときに爆弾からのがれるため、家のゆか下や庭をほってつくった穴です。穴の深さは約一メートル。家族がやっと入れるくらいの大ささでした。また、丘のしゃ面や神社の裏山には、大きめの横穴をほって人がたくさん入れるようにしました。防空壕ににげこんでもそこに爆弾が落ちれば、この物語のように中にいた人たちが死んでしまうこともありました。防空壕に入っていれば安全、というわけではなかったのです。





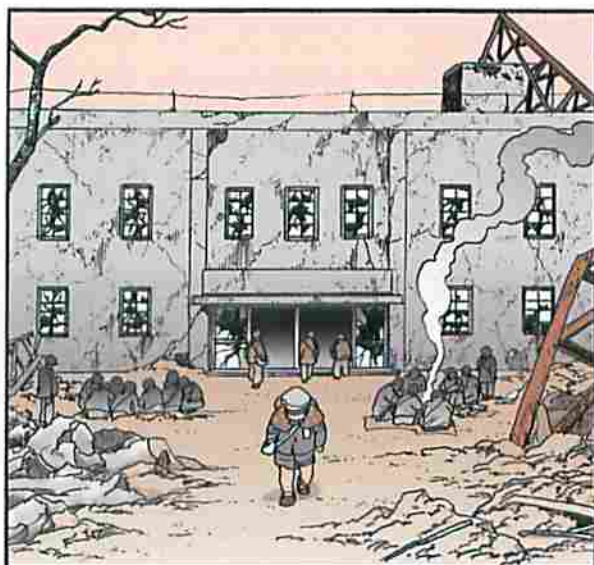
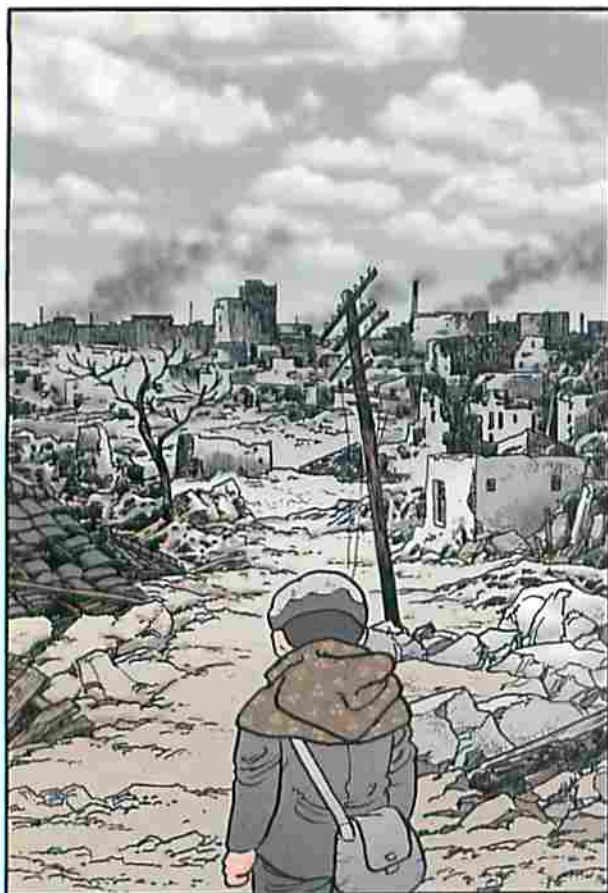
【B29と焼夷弾】

太平洋戦争で日本を空襲したのは、主にB29という爆撃機です。B29は、当時では最新型の大きな飛行機でした。この爆撃機がつんでいたのが焼夷弾です。中にゼリー状のガソリンが入っていて、地面に落ちると火をふきました。日本の家は大部分が木でできていたので燃えやすく、あつというまにあたり二面が火に包まれてしまいました。そのため、空襲によって町のほとんどが焼きつくされてしまったのです。



B29は大量の焼夷弾を落としました。



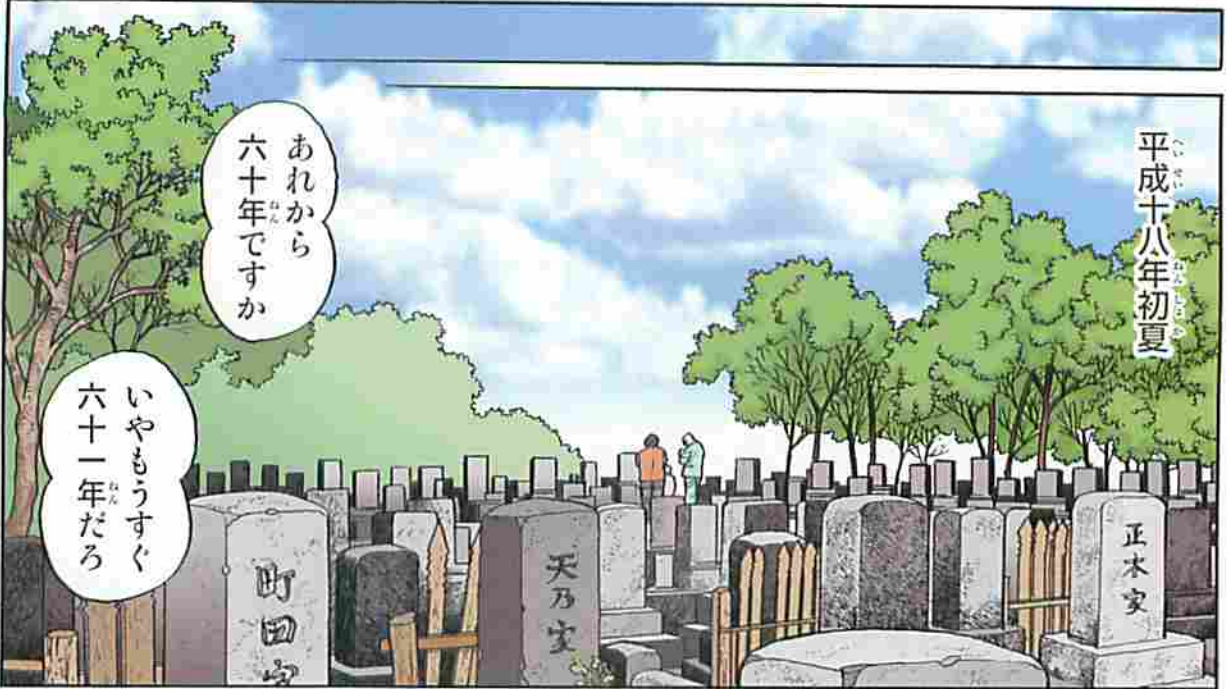




平成十八年初夏

あれから
六十年ですか

いやもうすぐ
六十年だろ



いろいろ
あったが...
何があっても
戦争はイヤだな

ほんとう
ですよ

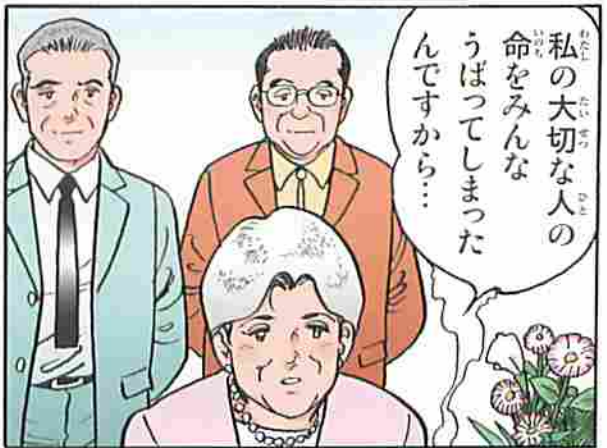


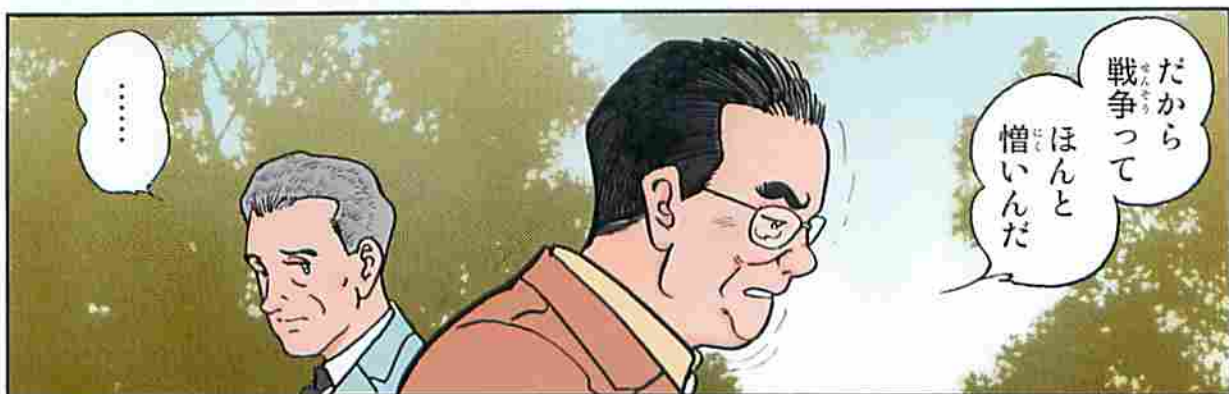
大好きな
周ちゃんも
な

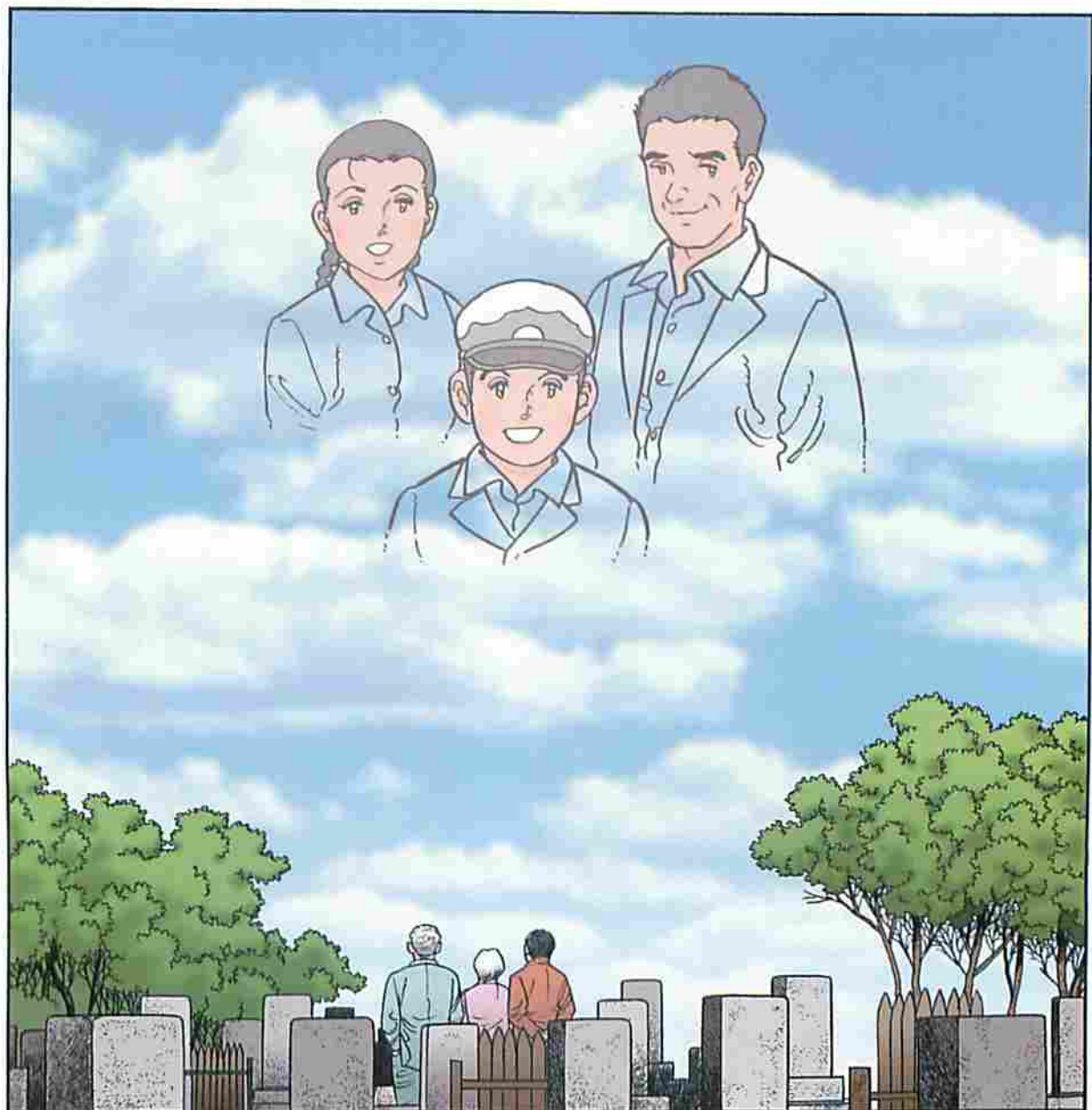
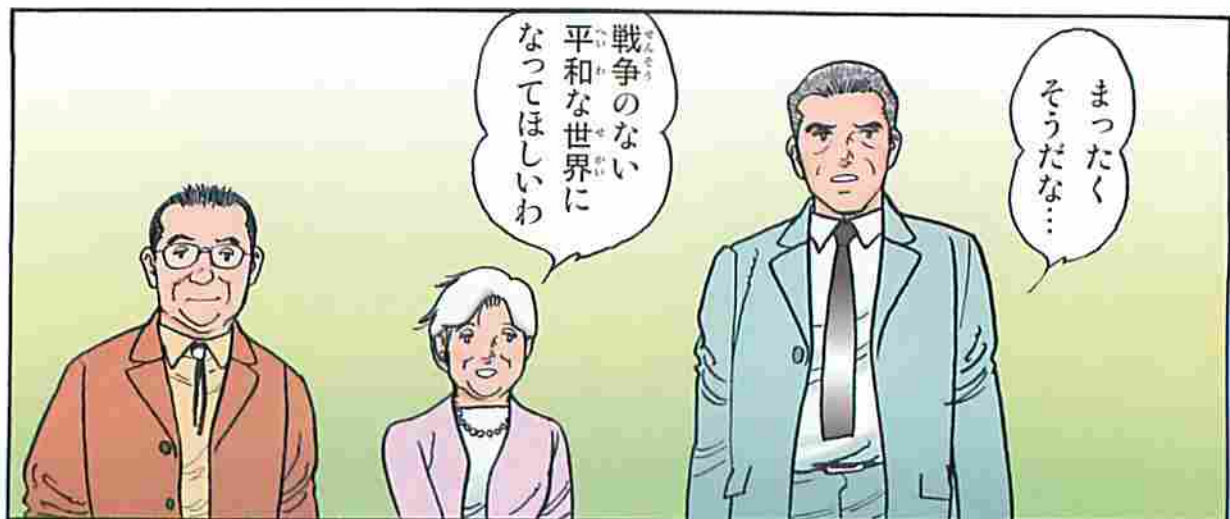
そう
周ちゃんは
やさしかった



私の大切な人の
命をみんな
うばってしまった
んですから...







戦争写真館



《焼け野原になった東京》

太平洋戦争では、日本中が空襲くうしゅうされました。中でも東京大空襲では一晩で10万人の人が亡くなりました。(写真は現在の日本橋浜町付近の焼けあと)



《子どもの本も戦争モード》

戦時中は子ども向けの本も、このように戦争のえいぎょうを強く受けていました。



《軍需工場で働く子どもたち》

働き手である男の人のほとんどが戦場に行ってしまったので、子どもたちは武器をつくる工場で働かなければなりませんでした。



《勉強よりも戦う準備》

学校では、勉強ではなく戦うための訓練ばかりしていました。海軍が15歳以上の子どもを飛行兵としてぼしゅうすると、自分から兵士になる子どもがたくさんいました。



《いつでもどこでも防空服》

子どもたちは、もんぺや防空頭巾などの防空服を着て授業を受けていました。いつでもにげられるように、夜も服を着たままねていました。

空襲などに あった おもな町

1942(昭和17)年の4月から戦争が終わった1945(昭和20)年の8月までのあいだ、日本国内の以下のような町が空襲や艦砲射撃などを受けました。そして、その多くの町が何回も空襲を受けました。このほかにも規模の小さなもの、軍の施設が爆撃されたものなど、実際にはもっと多くの町が空襲や艦砲射撃などを受け、全体で50万人以上^[注1]の一般住民が亡くなりました。

(平成18年12月現在)

●北海道
函館市
小樽市
苫小牧市
網走市
留萌市
旭川市
室蘭市
釧路市
帯広市
根室市
本別町
●青森県
青森市
八戸市
●岩手県
盛岡市
花巻市
釜石市
宮古市
一関市
●宮城県
仙台市
石巻市
塩釜市
●秋田県
秋田市
●山形県
酒田市
●福島県
福島市
郡山市
いわき市
●茨城県
水戸市
日立市
土浦市
高萩市

●栃木県
宇都宮市
足利市
栃木市
鹿沼市
●群馬県
前橋市
高崎市
桐生市
伊勢崎市
太田市
●埼玉県
さいたま市
川越市
熊谷市
川口市
●千葉県
千葉市
銚子市
船橋市
館山市
木更津市
松戸市
市川市
●東京都
区部
八王子市
立川市
武蔵野市
●神奈川県
横浜市
川崎市
平塚市
藤沢市
小田原市
鎌倉市

●新潟県
新潟市
長岡市
●富山県
富山市
高岡市
●福井県
福井市
敦賀市
●山梨県
甲府市
●長野県
長野市
上田市
●岐阜県
岐阜市
大垣市
●静岡県
静岡市
浜松市
沼津市
磐田市
三島市
伊東市
島田市
●愛知県
名古屋
豊橋市
岡崎市
一宮市
瀬戸市
豊川市
半田市
春日井市
津島市
●三重県
津市
四日市市

伊勢市
桑名市
伊賀市
鈴鹿市
●滋賀県
大津市
彦根市
長浜市
●京都府
京都市
舞鶴市
●大阪府
大阪市
堺市
豊中市
高槻市
吹田市
東大阪市
守口市
岸和田市
池田市
泉大津市
枚方市
●兵庫県
神戸市
姫路市
尼崎市
明石市
西宮市
芦屋市
伊丹市
相生市
●奈良県
奈良市
●和歌山県
和歌山市
海南市

有田市
御坊市
田辺市
新宮市
串本町
那智勝浦町
●鳥取県
米子市
●岡山県
岡山市
玉野市
●広島県
広島市
呉市
福山市
●山口県
下関市
宇部市
山口市
周南市
防府市
下松市
岩国市
山陽小野田市
光市
●徳島県
徳島市
●香川県
高松市
●愛媛県
松山市
今治市
宇和島市
八幡浜市
新居浜市
●高知県
高知市

●福岡県
北九州市
福岡市
大牟田市
久留米市
●佐賀県
佐賀市
●長崎県
長崎市
佐世保市
島原市
諫早市
大村市
●熊本県
熊本市
荒尾市
宇土市
八代市
人吉市
水俣市
●大分県
大分市
別府市
中津市
日田市
佐伯市
●宮崎県
宮崎市
延岡市
日南市
日向市
都城市
高鍋町
●鹿児島県
鹿児島市
薩摩川内市
いちき串木野市
阿久根市

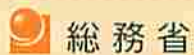
指宿市
霧島市
西之表市
垂水市
鹿屋市
枕崎市
日置市
頤娃町
知覧町
始良町
加治木町
●沖縄県^[注2]
那覇市
名護市
沖縄市
浦添市
糸満市
宮古島市
石垣市
うるま市
本部町
嘉手納町
西原町
与那原町
南風原町
伊江村
今帰仁村
読谷村

[注1] 沖縄県では、県下で地上戦が行われ、軍人以外の一般住民の死亡者が約10万人にもおよびました。このため「空襲や艦砲射撃など」に限定した被災状況を把握することがむずかしいので、

[50万人以上]の中には沖縄県の入数は含まれていません。
[注2] 沖縄県については、規模の大きかった1944(昭和19)年10月10日の空襲を受けたおもな町町村を記載しました。

この物語は戦争の悲惨さを次の世代に伝えるために、浜松大空襲の事実に基づいて制作したフィクションです。したがって、この物語に登場した人物や団体などは実在しません。

写真：昭和館、毎日新聞社、池谷晃司



～日本の空襲・戦災の記録を世代を超えて語り継ぐ～
一般戦災ホームページ <http://www.sensai.jp/>

この本を読んで、感想や作文をお寄せください

社団法人 日本戦災遺族会

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3 ダイアン麹町ビル4F TEL.03-3264-5287

制作協力 / 株式会社NHK情報ネットワーク